Color Science Association of Japan

納谷嘉信先生を偲んで

橋本健次郎（元パナソニック株式会社）

昨年末にご子息様からいただいた喪中の葉書で，納谷嘉信先生がご逝去されたことを知り，大変驚愕し言葉もありませんでした．

私が納谷先生にご指導いただいたきっかけは，1981年に松下電器産業㈱照明研究所から1年間大阪電気通信大学の納谷研究室に社外留学させていただいたのがはじまりでした．以来20年以上に亘り，ご指導賜りました．研究をはじめるにあたり，先生から「国際的に通用する研究をしなさい」と言われたのが印象に残っています．先生のご指導のおかげで，AICモナコ大会（85年）から京都大会（97年）までの各大会で国際発表を経験させていただき，先生から研究の厳しさと楽しさを教えていただきました．先生は93年のブタペスト大会において，AICで最も栄誉あるJudd賞を受賞されました．また，97年のAIC京都大会では組織委員長として大会を成功に導かれました．その時，私は代表幹事としてお手伝いさせていただき，いまも良い思い出となっています．

先生はAICでのご活躍とともに，CIE（国際照明委員会）において多大な功績を残されました．光メタメリズム，観測者メタメリズムの各評価法をはじめ，世界をリードする数々の研究成果はCIEの技術報告書として出版され，現在も広く活用されています．特に，色順応モデルは94年にCIEから勧告され，また色順応モデルを発展させた色の見えモデルはHuntモデルと折衷されてCIECAM97sとして2000年に勧告されました．これらのモデルは，照明・色彩の研究開発の基盤となる重要なモデルで，大変拡張性が高く，様々な色知覚現象をも予測できるものであります．私自身も，先生からご教授いただいた演色性の新たな評価方法の確立に向けて両モデルの活用を図っています．

一昨年の夏にお目にかかった時には，大変お元気でいつものように次の研究構想を熱く語られていましたのに，その翌年5月にお亡くなりになられたとは今も信じられません．

心からご冥福をお祈りいたします．

納谷嘉信先生との出会い

酒井英樹（大阪市立大学）

初めて納谷嘉信先生にお会いしたのは，私が学会に入会したての2002年，関西支部役員会の席上でした．

当時，先生はすでに大阪電気通信大学を定年退職されておりましたが，ご自宅を拠点として，論文執筆を中心に，活発に研究活動を続けられていました．支部顧問として役員会にもご出席され，学会運営に関して厳しくも温かい提言をされたり，最新の色彩分野の動向について解説をされたりしていました．会議の僅かな時間の中でしたが，とても勉強になり，先生のお話を聞くことは，役員会に出る楽しみの1つとなりました（私以外の役員の方も楽しみにされていたのではないかと思います）．

ただ，その当時－今でも同じ気持ちですが－私にとって，先生は，歴史上の偉人，雲の上の存在であり，気軽に話しかけるようなことはできませんでした．そんな中，2003年に東海支部で先生が講演されることを聞きつけ，会場に押し掛けました．わずか90分ほどの講演でしたが「色の見えの不思議さと面白さ」は圧倒的に面白く，魅了されました．その場で私も先生のように色知覚の問題を研究したいと強く思い，失礼を顧みず，興奮さめやらぬその会場で弟子入りを志願しました．その想いを先生に快諾していただき，それから先生との1対1の対話が始まりました．およそ2週に1度のペースで，1時間半ほど電話で先生の“授業”を受け，ある程度課題が溜まった段階で私が先生の自宅に押し掛けて“集中講義”を受ける－この繰り返しが「そろそろ酒井君も独り立ちしなさい」と言われる2008年末まで約5年間続きました．先生には具体的な研究課題以外にも，研究の進め方や学生の指導方法など研究者として身につけておくべき事柄も教えていただきましたが，繰り返しおっしゃっていたことの1つが「テーマは一杯有る．無駄な研究は，排除する．やらない．できるだけ排除する．これが大切．」でした．長年研究をされ，膨大な業績を成し遂げてなお，残された時間を惜しんで研究をされる姿は今でも目に焼き付いています．

最後に，納谷先生との出会いの場を与えいただきました日本色彩学会の方々には大変感謝いたします．

NII-Electronic Library Service